

## 第2章 勉学態度

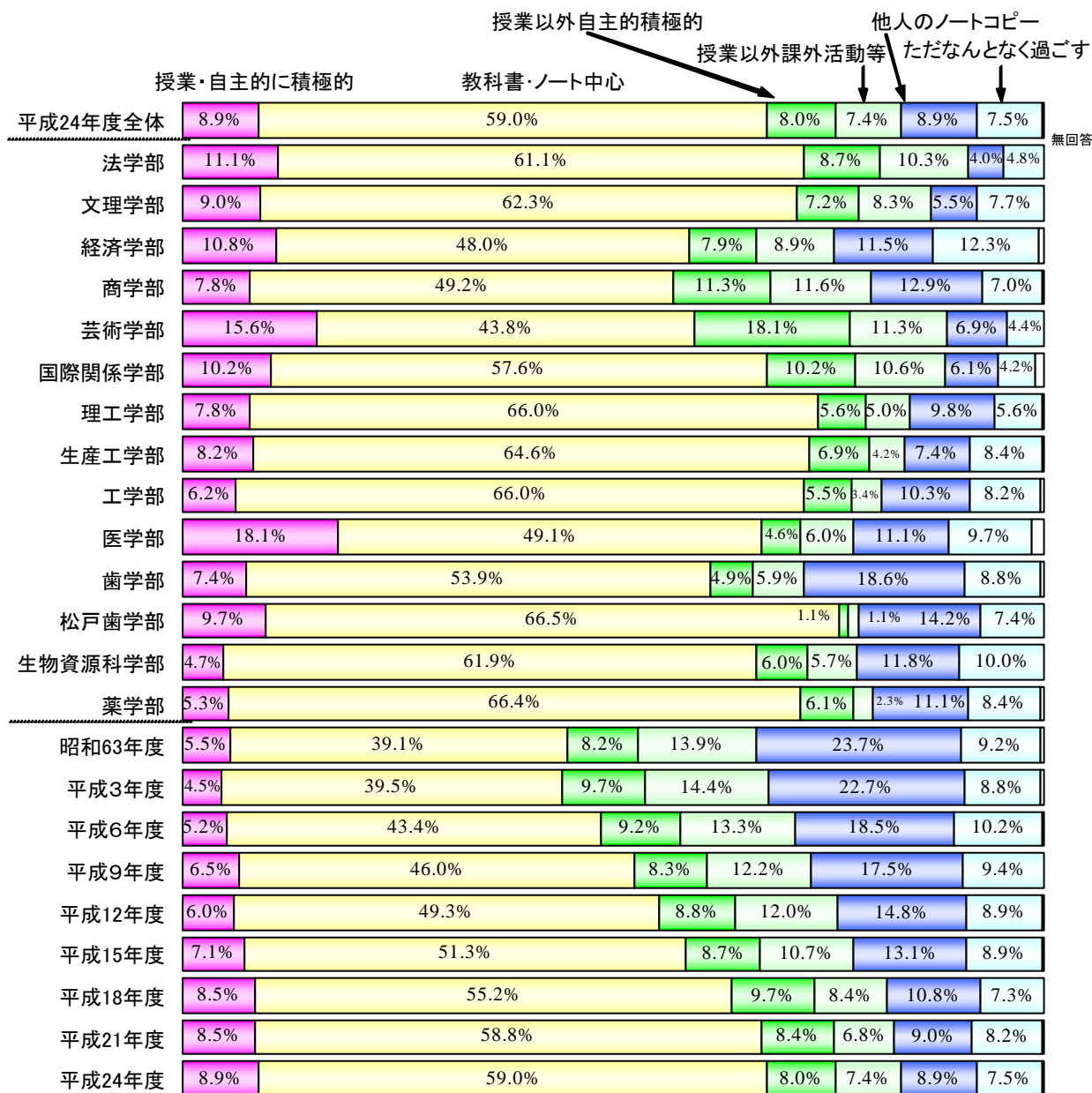
### 1.勉学態度

「教科書・ノートを中心に必要単位を修得」している学生が6割。  
カリキュラム重視で単位修得に取り組む学生の増加が、第1回調査（24年前）から継続。

勉学態度を見ると、「教科書・ノートを中心に必要単位を修得」している学生が全体の59.0%で、各学部ともこの勉学態度がトップとなっています。

医学部は「授業や自主的テーマで積極的に勉学」（18.1%）、芸術学部は「授業より自分で積極的にテーマにとりくみ勉学」（18.1%）、歯学部は「他人のノートのコピーで適当にすませている」（18.6%）が他の学部より比率が高く、3年前と同様の傾向が見られます。

経年変化を見ると、「教科書・ノート中心」が増加し、一方で「他人のノートのコピーで適当にすませている」が減少という傾向が第1回調査（24年前）から継続して見られ、授業に出席して単位修得に取り組む学生が増加し続けていることが分かります。



## 2.学部別 勉学態度の向上率

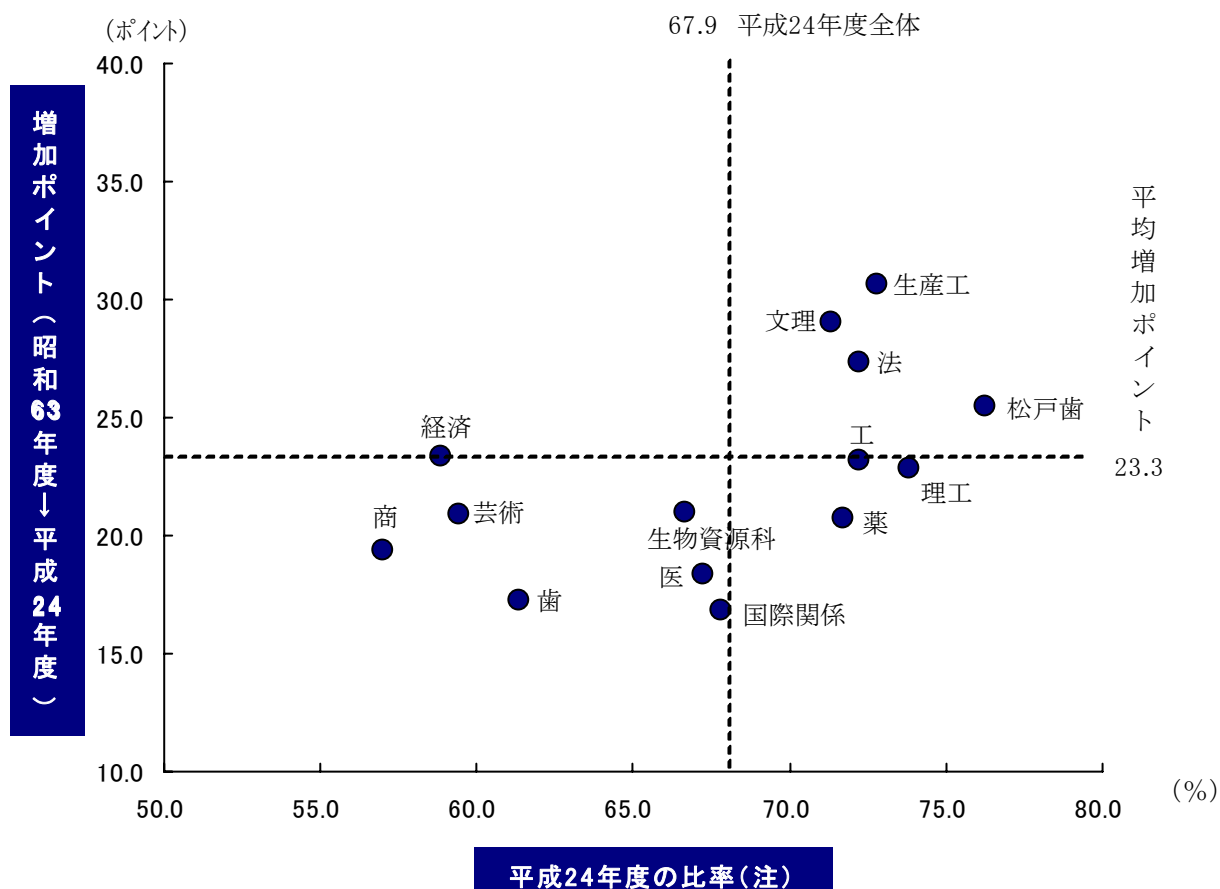
24年前に比べ勉学態度が大幅に向上し、まじめな学習態度の学生比率が高い学部は、生産工学部・文理学部・法学部・松戸歯学部。

「教科書・ノートを中心に必要単位を修得」に「授業や自主的で積極的な勉学」を加えた比較的主観的な勉学態度が、第1回調査時（24年前の昭和63年度）に比べてどのくらい増加したのかを学部別に見たものが下図です。縦軸が増加ポイント、横軸が平成24年度の比率を示しています。この図を見ると、全ての学部で増加しており、勉学態度が向上していることが分かります。最も増加ポイントが高かった学部は生産工学部で、平成24年度も72.8%と高くなっており、平成19年度の「共通基礎科目の強化」を軸としたカリキュラム改訂の成果が表れているものと考えられます。

同様に昭和63年度から24年間の増加ポイントが高く、今回調査（平成24年度）も比較的主観的な勉学態度の学生の比率が高い学部は、文理学部・法学部・松戸歯学部です。対照的に、増加ポイントが相対的に低く、今回調査も比較的主観的な勉学態度の学生の比率が低めだった学部は、国際関係学部・歯学部・医学部・商学部・生物資源科学部・芸術学部でした。

また、過去の調査では医学部・歯学部で「他人のノートのコピーを利用」する学生が多く見られましたが、両学部とも近年この比率が大幅に減少しています。学生達の自主的に学習に取り組む姿勢ができていくことが分かります。

学部別、比較的主観的な勉学態度の向上率



(注) 「授業や自主的で積極的な勉学」と「教科書・ノートを中心に必要単位を修得」の%の合計

### 3.学部別 勉学態度の経年変化

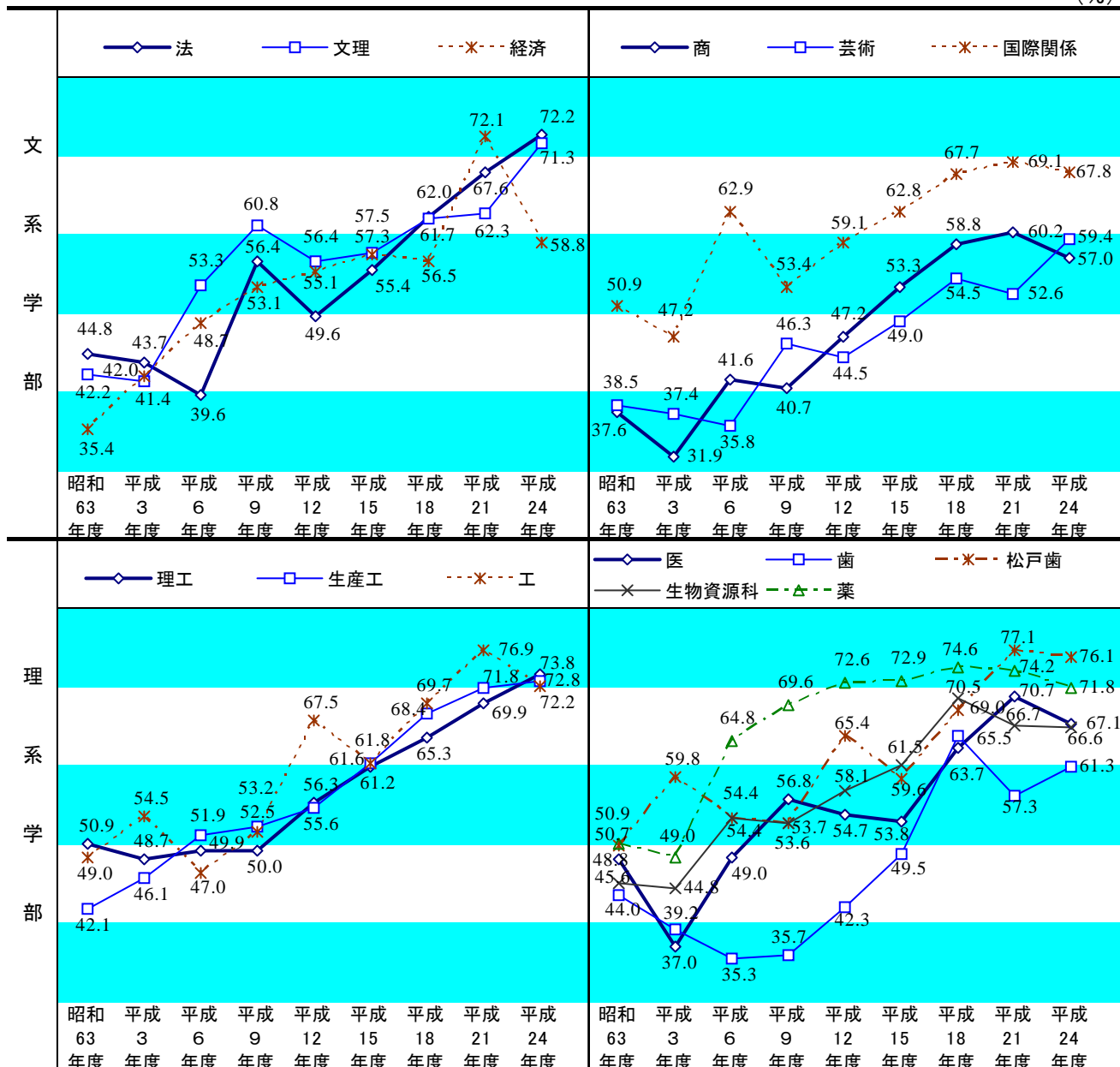
各学部ともそれぞれの教育改革に対する取り組みなどが学生の勉学態度向上に影響。  
学部により、向上時期と期間に差異。

前ページで考察した比較的まじめな勉学態度（「教科書・ノートを中心に必要単位を修得」と「授業や自主的で積極的な勉学」を加えた比率）の向上率について、学部別に経年変化を見たものが下図です。

全学部で概ね右肩上がりの向上傾向を示していますが、学部により向上時期と期間に差異が見られます。例えば経済学部では平成18年度から平成21年度の3年間に56.5%から72.1%と15.6ポイント増、同様に工学部は平成12年度、法学部は平成9年度、国際関係学部と薬学部は平成6年度にそれぞれ3年前より15ポイント以上増加しています。一方、生産工学部では昭和63年度から24年間で30.7ポイント増、商学部では平成3年度から18年間で28.3ポイント増、歯学部では平成9年度から9年間で29.8ポイント増と長期間で大幅な伸びが見られます。時期や期間は異なっていますが、各学部とも、教育改革の取り組みなどに伴って、学生の勉学態度が大きく向上していることがうかがえます。

学部別,比較的まじめな勉学態度の経年変化

(%)



(注) 「授業や自主的で積極的な勉学」と「教科書・ノートを中心に必要単位を修得」の%の合計

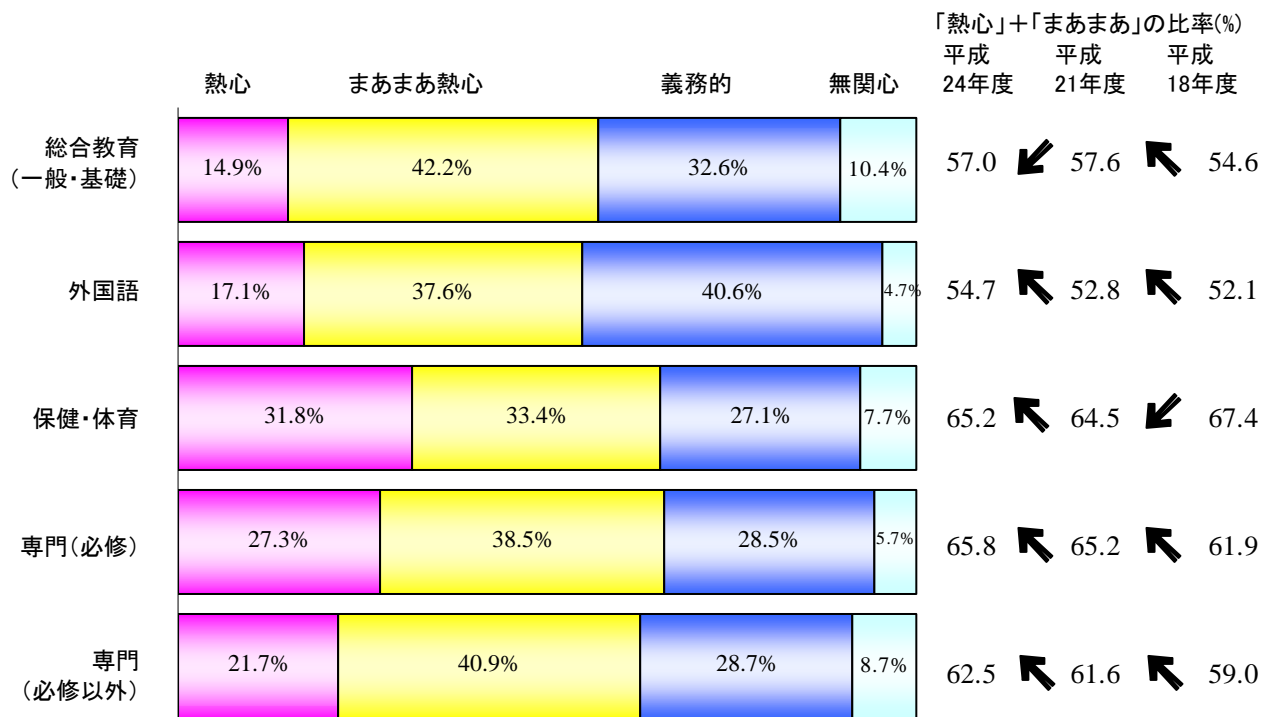
## 4.授業態度

専門（必修と必修以外）や保健・体育に熱心な学生が60%超。  
 専門（必修と必修以外）と外国語は6年前から熱心な学生の比率が増加傾向。

総合教育（一般・基礎）科目の授業について本学学生全体の授業態度を見ると、「授業に関心があり熱心だった」が14.9%、「まあまあ熱心に聞いていた」が42.2%となっており、両者を加えると57.0%の学生が熱心な態度で受けていると言えます。「試験が不安だから聞いていた」「出席をとるから義務感で出ていた」といった「義務的」態度の学生は32.6%、「ほとんど聞いていなかった」「他のことをやっていた」など「無関心」層は10.4%でした。

「熱心」と「まあまあ」を加えた比率を見ると、専門科目の必修授業が65.8%で最も高く、次いで保健・体育（65.2%）、専門科目の必修以外の授業（62.5%）の順で高くなっています。外国語は「義務的」態度が40.6%と高くなっています。平成18年度・平成21年度と比較すると、専門科目（必修・必修以外とも）と外国語で熱心な態度の学生が増加する傾向が見られます。

\*四捨五入の関係で数値の合計が一致していません。（下図右の数値も同様）

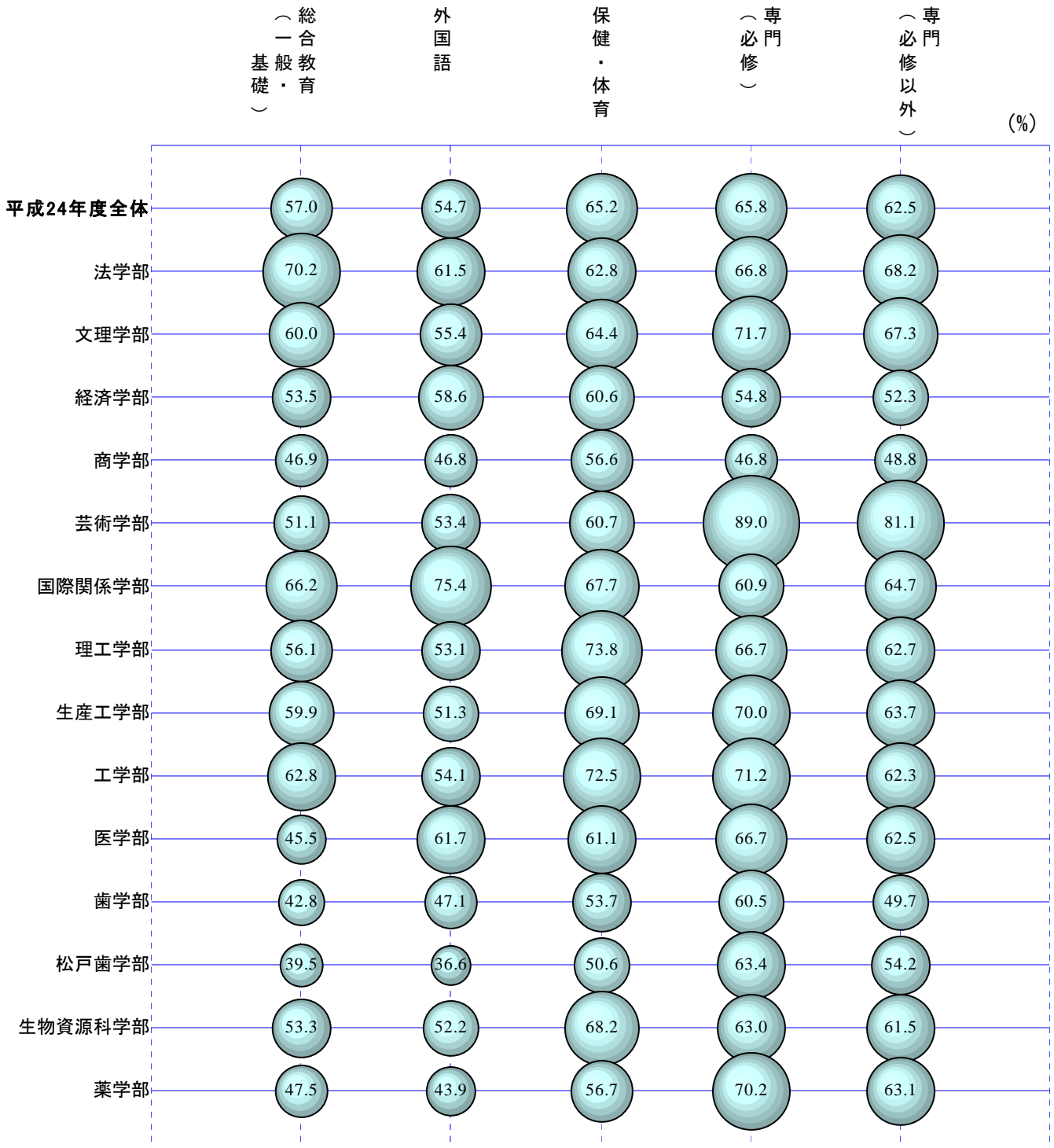


(注) 「義務的」は「試験が不安」「出席をとるから」の合計、「無関心」はそれ以外の合計  
 「受講科目にない」と無回答を母数から減じて%を算出

## 5.学部別 授業態度(熱心さ)

熱心な分野は、芸術学部では専門、国際関係学部では外国語。  
法学部では総合教育、医学部・薬学部では専門(必修)に重心。

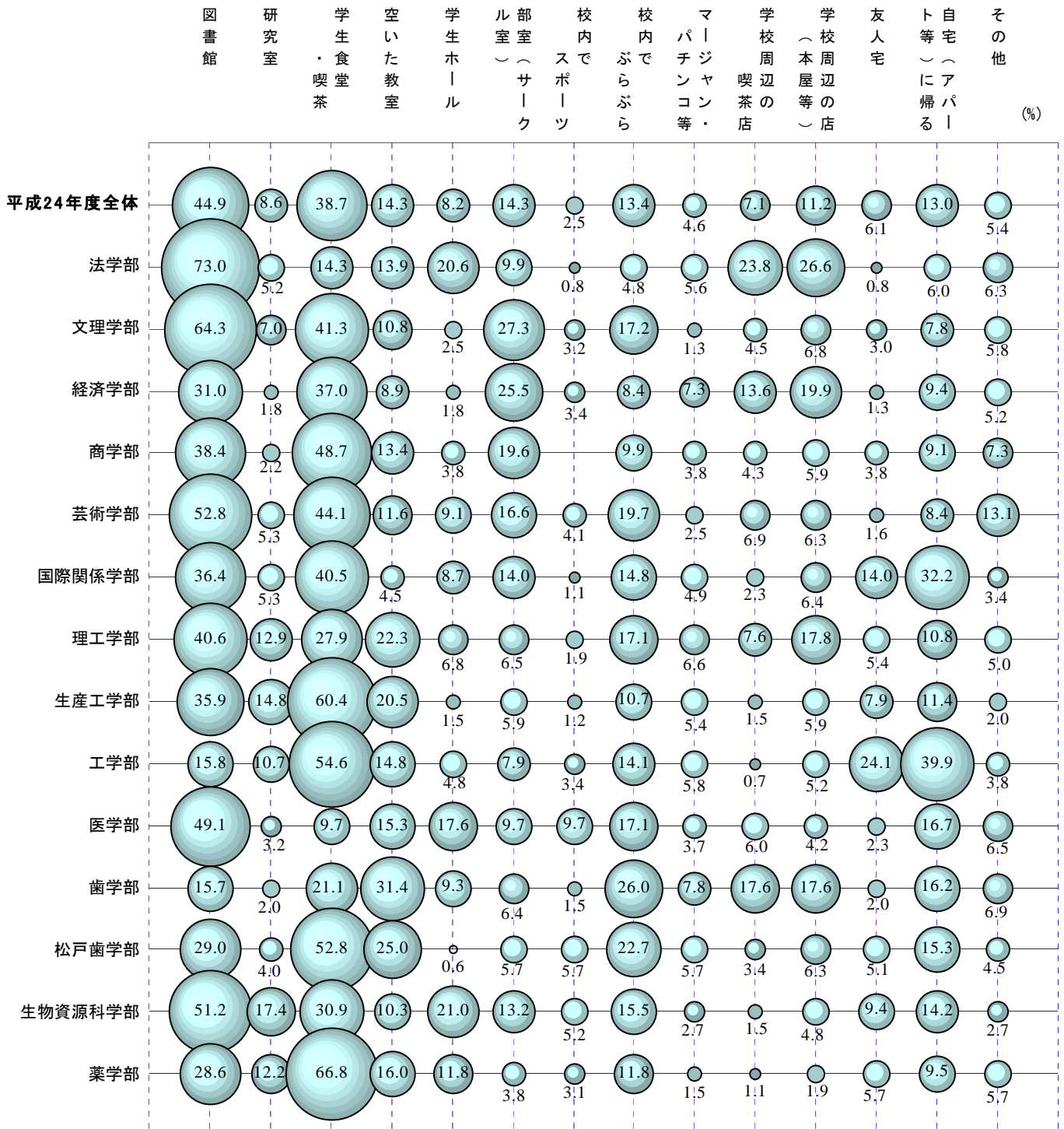
授業態度について「熱心」と「まあまあ」を加えた比率を学部別に見ると、芸術学部では専門(必修)が89.0%、専門(必修以外)が81.1%と専門科目に対する熱心度が強い点が目立っています。また、国際関係学部では外国語が75.4%、理工学部では保健・体育、工学部では保健・体育と専門(必修)が70%以上と高くなっています。法学部では総合教育(一般・基礎)に熱心な学生の比率が最も高く、医歯薬系学部では専門(必修)が高く熱心なものの、総合教育が低い傾向が見られます。



## 6. 空き時間を過ごす場所

空き時間を過ごす場所のトップは「図書館」。次いで「学生食堂・喫茶」。学部によって空き時間を過ごしやすい場所に差。

学内で空き時間ができた場合に過ごす場所を見ると、「図書館」が44.9%で最も高く、「学生食堂・喫茶」が38.7%で続いています。近年図書館がリニューアルされた法学部と文理学部では、「図書館」が70%前後となっています。経済学部・商学部・国際関係学部・生産工学部・工学部・松戸歯学部・薬学部は「学生食堂・喫茶」、歯学部では「空いた教室」がトップとなっており、学部によって過ごしやすい場所に差があることが分かります。設備の差異を反映しているものと考えられます。





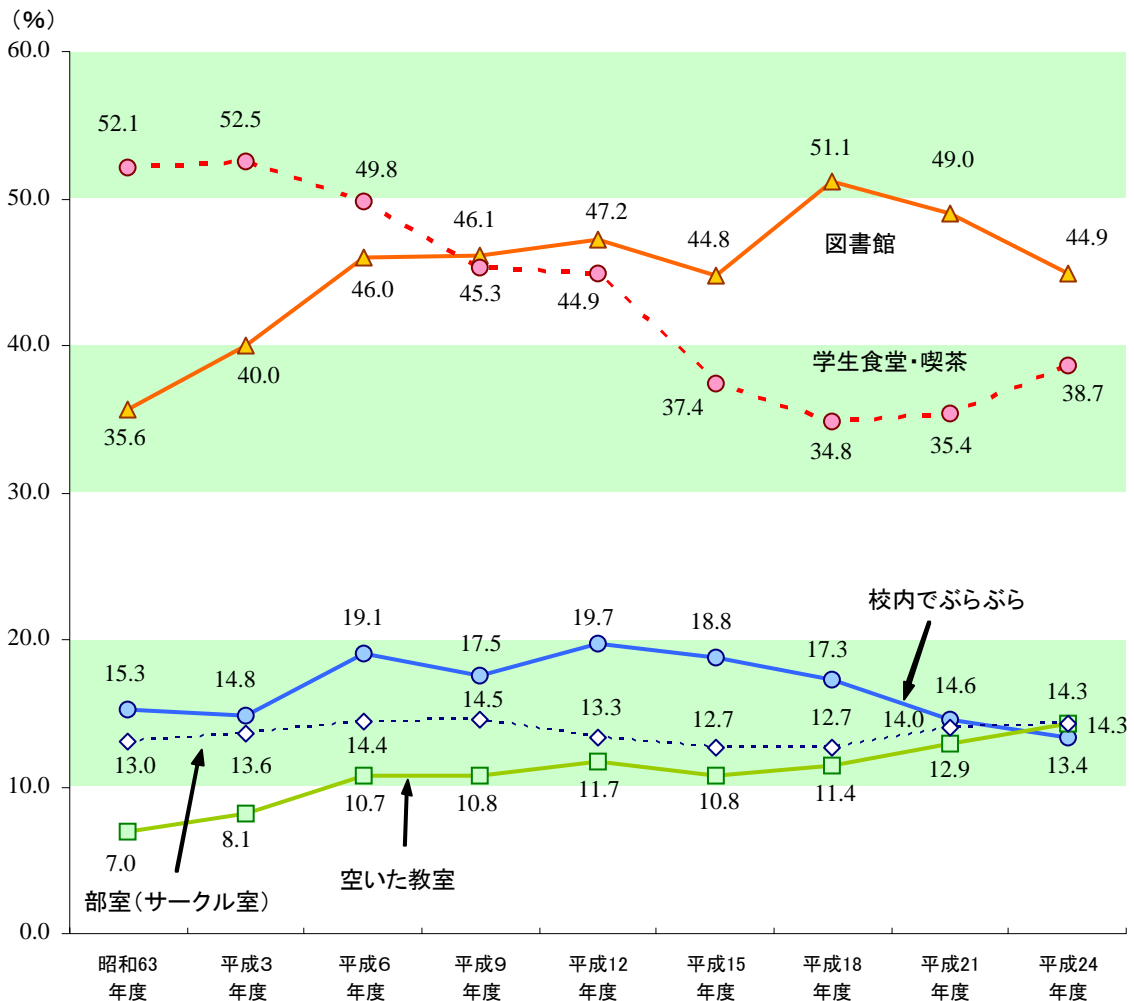
## 7. 空き時間を過ごす場所—今回ベスト5の経年変化

6年前から、空き時間を過ごす場所は「図書館」が減少、「学生食堂・喫茶」が増加傾向。図書館やキャンパスのリニューアルにより、学内での行動に変化。

学内で空き時間ができた場合の過ごす場所を経年変化で見ると、「図書館」が昭和63年度の35.6%から増加傾向にあり、平成18年度には51.1%に達していましたが、平成21年度から減少に転じ、平成24年度は44.9%と6年間で6.2ポイント減少しています。法学部と文理学部では平成18年に3年前より20ポイント以上増加しており、その間に実施された図書館のリニューアルの効果が顕著に表れています。ただし、平成21年度には両学部とも10ポイント前後減少しており、全体としての減少傾向の一因となっています。

一方、「学生食堂・喫茶」は平成3年度の52.5%から平成18年度までの15年間で17.7ポイントも減少していましたが、6年前より増加に転じています。薬学部で学生ホールやインターネットを併設した学生食堂が完成したことにより平成21年度に71.6%と3年前比35.4ポイント増、商学部でも同年の新1・2号館竣工により平成24年度に48.7%と3年前比21.9ポイント増と、両学部でアメニティーの場が充実したことが影響しているものと考えられます。新改築などの要素が、学生の学内での行動に変化をもたらしていることがうかがえます。

平成24年度ベスト5の経年変化



## 8.空き時間に過ごす友達の数

空き時間に主に一人で過ごす学生が3人に1人。増加傾向に歯止め。  
キャンパスで一緒に過ごす友達の数の傾向に若干変化。

学内で空き時間ができた時に過ごす友達の数を全体で見ると、「主に一人」が34.6%となっています。一方、「二人」が20.4%、「三人」が16.4%、「四人以上」が27.5%と、友達と共に過ごすことの多い学生は合計で64.3%となります。一人で過ごす学生の比率が高い学部は法学部（50.4%）・芸術学部（45.3%）・国際関係学部（43.2%）です。薬学部では「四人以上」と多人数で過ごす学生が半数を占めています。

経年変化を見ると、一人で過ごす学生の比率は昭和63年度の17.3%から平成21年度の35.0%まで21年間増加が続いていましたが、今回の調査では34.6%と微減しています。一方、四人以上が毎回減少傾向にありましたが、平成21年度から増加に転じ、今回は27.5%となっています。キャンパスで一緒に過ごす人数の傾向に若干変化が見られます。

	主に一人	友達と二人	友達と三人	四人以上	無回答
平成24年度全体	34.6%	20.4%	16.4%	27.5%	1.1%
法学部	50.4%	23.8%	8.7%	15.5%	1.6%
文理学部	38.8%	20.3%	15.7%	24.8%	0.3%
経済学部	33.3%	27.3%	15.5%	23.6%	0.3%
商学部	38.2%	21.0%	12.6%	26.3%	1.9%
芸術学部	45.3%	18.4%	16.6%	18.1%	1.6%
国際関係学部	43.2%	28.8%	14.8%	11.0%	2.3%
理工学部	28.0%	16.3%	20.2%	34.5%	0.9%
生産工学部	22.1%	18.1%	19.3%	39.1%	1.3%
工学部	28.5%	15.5%	19.9%	34.4%	1.7%
医学部	36.6%	22.2%	17.6%	22.7%	0.9%
歯学部	33.8%	19.1%	23.5%	21.6%	2.0%
松戸歯学部	21.6%	23.3%	21.6%	33.0%	0.6%
生物資源科学部	31.3%	18.3%	17.9%	31.7%	0.8%
薬学部	14.1%	16.8%	17.6%	50.0%	1.5%
昭和63年度	17.3%	17.2%	21.0%	41.8%	2.7%
平成3年度	19.6%	17.8%	19.1%	41.1%	2.4%
平成6年度	23.8%	18.8%	18.9%	38.0%	0.5%
平成9年度	28.0%	19.3%	20.0%	32.2%	0.5%
平成12年度	29.1%	22.4%	20.4%	27.6%	0.5%
平成15年度	32.3%	21.8%	18.9%	25.9%	1.1%
平成18年度	34.4%	23.4%	17.7%	23.2%	1.2%
平成21年度	35.0%	21.4%	16.5%	26.2%	1.0%
平成24年度	34.6%	20.4%	16.4%	27.5%	1.1%